
12. シマントプロジェクトー賃貸コレクティブハウジング構想ー

SHIMANTO PROJECT

(大阪府大阪市)

I. 活動の背景と目的

大阪市北区に老朽化したビルがあり、そのビルの建て替え計画がSHIMANTO PROJECT (賃貸コレクティブハウジング) だ。高齢者、障害者、子ども、健常者が、旧態依然とした常識、慣習、ジェンダーにとらわれないうで、助け合いつながらあう住空間をめざしている。ここでは住人それぞれの独立した住居部分と、台所、居間、大浴場などの自主管理による共用スペースからなうていて、個人のプライバシーが確保された上で、共用スペースでの住人同士の取り決めによる共同生活が営まれるのである。

従来の賃貸マンションのような方法で入居者を募るのではなく、建設前に入居者を募り間取りや使用する建材から、共用スペースの運営の仕方や、共同生活のルールにいたるまでさまざまな住まいのあり方を、ヒアリングやワークショップを通して検討し、個々の立場や思いを反映させながら、コレクティブハウジングを創りあげていこうという試みだ。

II. 活動の内容

第1回ワークショップ：1996. 11. 23 参加者数 60名

第2回ワークショップ：1997. 2. 1 参加者 20名

テーマ「コレクティブハウジングって何？」

ねらいー SHIMANTO PROJECT の共同の暮らしとはどんなものかを理解し、イメージをふくらませてもらう

『TOTO 通信 (SEP. - OCT. 1995)』、芝居 (共同の食事場面)

第3回ワークショップ：1997. 4. 19 参加者数 22名

テーマ「私の望む個人スペース、共用スペースについて考えよう！」

ねらいー 1フロア70畳のイメージづくり。1/50の平面図に、個人スペース、共用スペース、それぞれどのくらいの広さをとれるか、考えてもらう

1/50の平面図・パーツ (3, 6, 8, 10畳、ミニキッチン、車椅子用トイレ、ユニットバス)

第4回ワークショップ：1997. 6. 29 参加者数 10名

テーマ「SHIMANTO PROJECT の望むモデルイメージって何？」

ねらいー SHIMANTO のモデルイメージ、1/50のスケッチ風平面図から、共同の

暮らしをイメージしてもらう

菅家さん（設計担当）によるスケッチ風平面図（個人スペース、リビング、キッチン、車椅子用トイレ、大浴場、屋上庭園など）

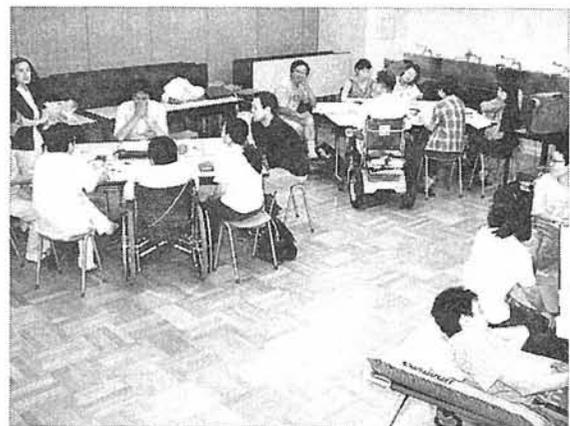
第5回ワークショップ：1997. 8. 31 参加者数 12名

テーマ「SHIMANTO PROJECTの共生の住まい方って何？」

ねらいー共用スペース（キッチン、リビング、大浴場）の暮らし方の芝居を観て、共生の住まい方のプラス面、マイナス面について考えてもらう
芝居（大浴場の場面）、ビデオ（食事の場面）



「大浴場」はこんな感じ
(芝居でイメージ)



第5回ワークショップ

第1回ヒアリング（1997. 9～1998. 3）：人数 5名

内容ー希望家賃、間取り、個人スペースに最低限度必要な設備、共生の暮らしについての良いイメージ、悪いイメージについて

第6回ワークショップ：1998. 1. 23 入居希望者のみ 5名

テーマ「あんたがたどこさ！お互いを知ろうよ！」

ねらいーゲーム形式で互いに質問（名前、どこでどんな暮らし方をしているか、趣味）しあいながら、相手を紹介させ、お互いを知ってもらう
1997. 9の北欧のコレクティブハウスのスライド

第7回ワークショップ：1998. 3. 22 入居希望者のみ 4名

テーマ「お互いの違いを知ろうよ！」

ねらいー質問（トイレトーパーを使いすぎるAさん、節約して使うBさん、についてどう思うかなど15項目）の答えは様々であることから、お互いの

価値観の違いを認め合うことの大切さを知ってもらう



第7回ワークショップ

III. まとめと今後の課題

延べ120人ほどの参加があったにもかかわらず、入居希望者は6人という結果である。これは共生の住まいが、相手との距離の取り方が難しいため、できないと思ってしまう人たちが多かったからだと考えられる。

今後の課題としては、入居希望者の方たちとハード面（具体的な家賃金額、間取り、設備）の話もすすめながら、ソフト面（共生の住まい方の理念）の確立をはかりたい。また、入居希望者はまだまだ少ないが、人数にこだわるのではなく、本当に共生の暮らし方を理解し、楽しん住むことのできる人たちと出会うことが、重要だと痛感している。そのため時間はかかるがじっくりと取り組んでいきたい。